

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	こうちけんりつこうちにしようとうがっこう				②所在都道府県	高知県
27～31	①学校名	高知県立高知西高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	生徒数 836 (普通科 716、英語科 120)	
	普通科	243	239	40	522		
英語科	41	41	38	120			
⑥研究開発構想名	「食を活かした地域創生」をテーマにしたグローバル人材の育成						
⑦研究開発の概要	食に関する課題や地域活性化事例等とその要因を収集・分析し、グローバルな視点から地域活性化に繋げるモデルを提案する取組を通して、グローバル人材を育成する。国内・海外でのインターンシップ等の高負荷の活動を課し、日本語と英語の探究活動を統合させるためのカリキュラムを実施する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>高知県が官民あげて取り組んでいる「食を活かした地域創生」をテーマに、グローバルな視点から様々な事例を学び、地域が持つ価値を最大限に活かした、持続可能な「地域創生モデル」を探究する。さらに、地域創生モデルを広く世に展開する過程を通して、高知県のみならず世界のローカルな地域の活性化に貢献することのできる人材を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>【現状】</p> <p>20年に及ぶ姉妹校交流や留学生の派遣受入れなど、本校の国際交流活動は活発である。生徒は何事にも全力で取り組む姿勢を持ち、自主活動や社会貢献活動に対する意識が高い。調理部は、食で企業と連携して商品開発をした実績がある。地元大学と連携した探究型授業の経験の蓄積がある。英語科では英語による探究授業が成果を出しており、進路先選択に大きな影響を与えている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験が少なく、真面目な生徒が多いことから、特に失敗経験が少ない。</li> <li>・近年、留学に挑戦する生徒が減少している。</li> <li>・高大連携による探究型授業は一部の生徒が対象で、学校全体の取組となっていない。</li> <li>・英語による探究型授業は普通科では実施できていない。</li> </ul> <p>【仮説】</p> <p>海外インターンシップなどの高負荷の国際体験活動を通して、グローバルな観点から、地元資源である「食」を活かした地域活性化を考察する活動を行うことで、深い地域理解と日本人としてのアイデンティティを身に付けたグローバル・リーダーを育成することができる。</p> <p>【仮説1】 身近な課題を調査・探究し、課題解決モデルを作成したうえで、課題に対し自己を位置づけ、グローバル展開する探究活動を行うことで、グローバル・リーダーに必要とされる社会性や課題発見力、創造的思考力、課題解決力が身に付く。</p> <p>【仮説2】 英語科で実施している英語による探究型授業を普通科でも行い、仮説1の探究活動と関連付けることで、国際的な場面において世界の人と英語で対等に意見交換をすることができるコミュニケーション能力が身に付く。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「食と地域創生」国際シンポジウムの開催</li> <li>②提言と意見交換ウェブサイト立ち上げ</li> <li>③小中学校でのプレゼンテーション</li> <li>④公開授業、研修会、ワークショップの実施</li> <li>⑤大学・企業・自治体関係者を招いて報告会実施</li> <li>⑥他のSGH校との連携</li> </ul>					
		<p>(1) 課題研究内容</p> <p>地域活性化に様々な強みを持つ「食」を研究対象とし、地域の様々な事例や事例に含まれる課題、成功要因等を収集・分析する。次に、グローバルな観点から地域資源を活用して地域を活性化し、持続可能性の高い「地域創生モデル」を作成し、「食と地域創生」国際シンポジウムを開催して提案を行う等、作成したモデルを広く世界に展開する。</p>					

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>この際に、高知大学および高知工科大学、大阪大学、海外の高校や大学、インターンシップを行う海外企業、地元企業や自治体と連携し、研究の深化を図る。</p> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p>グローバル教育推進委員会と運営指導委員会で検証評価を行う。</p> <p>ア、グローバルな探究力の育成</p> <p>(1年次) 「グローバル探究Ⅰ」で、「生産流通問題」「六次産業」「食と健康」「食と観光」等のサブテーマの下、小グループで事例を収集し、調査・探究活動を行う。この中で、課題の意義や課題発見の仕方等を学び、課題発見力や創造的思考力を養う。リサーチや課題発見のためのフィールドワークを県内外で行う。</p> <p>また、リーダー性の高い生徒15名を8月にシンガポールに派遣し、現地学生との討論や食の流通調査を行い、グローバルな観点から課題を発見する体験をさせ、以降のグループでの探究活動の核とする。</p> <p>(2年次) 「グローバル探究Ⅱ」で、1年次のサブテーマに基づいて新たなグループを構成し、探究活動を深化させ、それぞれの地域活性化モデルづくりに取り組む。収集した事例から分析した要因等を組み合わせ、グローバルな価値を付加した新たなモデルの作成を通して課題解決力を養成する。</p> <p>海外インターンシップ(オーストラリア15名・シンガポール10名・香港6名・インド3名)で現地企業の食に対する考え方や仕事に関する考え方を直接学び、現地生徒との討論等を通してモデルのブラッシュアップを図り、チャレンジ精神と行動力を養うとともに、以降の探究活動において中心的役割を担わせる。</p> <p>(3年次) 関心・意欲・能力の高い生徒は「グローバル探究Ⅲ」で、課題探究をさらに深化させる。加えて「課題論文」で、自己の位置づけを明確にして課題論文を書き、プレゼンを行う。「グローバル探究Ⅲ」では、リーダーの資質に富む生徒を中心に、地域創生モデルを世界に広く展開する。</p> <p><b>【具体の活動】</b></p> <p>生徒の運営の下、本校の主催で「食と地域創生」国際シンポジウムを開催する。海外連携高校・大学やインターンシップを行った海外企業の方には、実際に来ていただいたり、テレビ会議システムにより参加していただき、その他、地元企業や大学関係者ならびに県内在住外国人に参加を要請する。同時に専用ウェブサイトを立てて世界に向けて提言し、活発な意見交換の場を設ける。また、県内小中学校に出向いて探究授業内容を紹介し、県全体のグローバルな社会意識の早期醸成の一翼を担う。</p> <p>イ、英語活用力の育成(オールイングリッシュで探究活動)</p> <p>(2年次) 「英語表現Ⅱ」「グローバルエデュケーションⅠ」で、「信念/信仰と食」「食とフェアトレード」「言語/習慣と食文化」のサブテーマに基づいて、少人数編成講座で海外とのインターネットでのディスカッション等も活用して英語での探究活動を深化させる。</p> <p>(3年次) 「グローバル探究Ⅲ」の選択生徒は「英語課題探究」「グローバルエデュケーションⅡ」で、自己の位置づけを明らかにして英語課題論文を書き、プレゼンを行う。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <p>①必要となる教育課程の特例とその適用範囲</p> <p>「社会と情報」を「グローバル探究Ⅱ」(2単位)で代替する。</p> <p>②教育課程の特例に該当しない教育課程の変更</p> <p>国語科の中に学校設定科目「課題論文」(1単位)を置く。また、「総合的な学習の時間」を「グローバル探究Ⅰ」(2単位)と「グローバル探究Ⅲ」(1単位)に名称を変更して教育課程に編成する。</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>
<p>⑨その他</p>	<p>プログラムを支援するハードの整備・充実</p>

ふりがな	こうちけんりつこうちにしこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	高知県立高知西高等学校		

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	520人
	SGH対象生徒以外:		107人	120人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: SGH対象生徒の80%以上、対象生徒以外の50%以上が取り組むように指導する。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:		39人	42人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: SGHの課題研究以外において、語学研修等の参加者が増加すると見込まれる。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		不明	42%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 現状で英語科生徒の60%が該当しており、SGHの活動導入でさらに増加すると見込まれる。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:		4人	2人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 該当する大会等への参加を促すことで入賞者を増やすことが可能であると考ええる。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		8%	10%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 英語検定2級以上の合格者を勧奨した。3年までSGHを続ける生徒は相応の英語力が求められる。								
将来に渡って国際的な視野でグローバルな地域課題を解決したいと考える生徒の割合								
f	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		不明	10%				30%
目標設定の考え方: グローバルな地域課題以外の課題に取り組む生徒もいると思われる。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	30%
	SGH対象生徒以外:	7%	9%	%	%	%	%	%	10%
目標設定の考え方: グローバル30、および、スーパーグローバル大学への進学者数を勘案した。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	4人
	SGH対象生徒以外:	1人	1人	人	人	人	人	人	1人
目標設定の考え方: 海外大学との連携により海外への進学意識が高まると見込まれる。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 英語科「グローバルエデュケーション」の実績から課題研究が専攻分野に大きな影響を与えられ。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: SGHの活動により海外へのハードルは下がるが、経済的制約を勘案して目標を設定した。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 1, 2年次における海外リサーチおよび海外インターンシップの参加者数。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	420人
目標設定の考え方: 1年次全員の国内リサーチ、および、2年次50%が大学等の授業に参加するように指導する。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	校	校	校	校	校	8校
目標設定の考え方: 27年度連携合意に至っている5校に加えて他の地域で3校開拓する。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	2人	2人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 27年度参画依頼の76人から徐々に増やして定期的に招聘する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	2人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 27年度参画依頼の20人から徐々に増やして定期的に招聘する。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	18人	25人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: ディベート大会、国際教育大会等に加えて、できるだけ多くの大会に参加を促す。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	2人	4人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 帰国生徒数は変動が激しいため、恒常的に受け入れる留学生数から目標を設定した。								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	5回	回	回	回	回	回	8回
目標設定の考え方: SGHの研究発表を年間2回実施、他の研究発表を現行以上に奨励する。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
目標設定の考え方: 英語HPは当該年度中変更を要しない形で作成しているが、今後は週に1回程度更新する。								
生徒による中学生への情報発信回数								
j	2回	2回						10回
目標設定の考え方: 現行の本校における発表会に加えて、生徒が中学校を訪問して情報発信する機会を持つ。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	835	831	840	840	840	840	840
SGH対象生徒数			280	560	640	640	640
SGH対象外生徒数			660	280	200	200	200